

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	672700325
法人名	医療法人社団 緑愛会
事業所名	グループホーム満天の家
訪問調査日	平成 20年 11月 27日
評価確定日	平成 21年 1月 14日
評価機関名	協同組合オール・イン・ワン

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	672700325		
法人名	医療法人社団 緑愛会		
事業所名	グループホーム満天の家		
所在地 (電話番号)	山形県西置賜郡小国町大字幸町6-1 (電 話) 0238-62-3311		
評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市松町4-3-10		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成21年 1月14日

【情報提供票より】(平成20年11月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 13.5 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設／単独	新築／改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,900 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ (食費に含む) 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月 8日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 72 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小国町立病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の高齢者部会やケアスタッフ勉強会、地域の方を交えた起震車体験会等の取り組みがあり「地域に欠くことのできない事業所」を目指している。また、買い物や外食を主に地域で行い、馴染みの店が出来るなど、地域との関わりを大切にしている。利用者の家族とも良好な関係が築かれ、事業所内には家族の方々が作成した作品が飾られていたり、食材などの差し入れも頻繁に受けている。事業所が所属する法人内での会議や研修会、様々な外部研修、勉強会など多く、それらを通して職員の自己研鑽の機会を作っている。利用者がキラキラ輝いて欲しいという願いからの「満天」であり、自然豊かな満天の星が降り注ぐ事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題である、職員全員で自己評価に取り組むことへの期待について、今年度は自己評価を職員全員で行い、その後ユニット会議で話し合うなど、改善への取り組みが見られた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については全職員が行い、その後、ユニット会議等で話し合い確認している。前回の外部評価に関しては全体会議等で周知を図り改善し、また、年1回の家族交流会で家族に説明、報告し意見等を受けている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、事業計画、事業所の事故事例、ヒヤリハット事例、非常災害対策、外部評価結果等の報告を行い、様々な意見を受けている。その会議の中で非常災害対策として連絡体制に関して、地域の方々に協力を依頼し、緊急連絡網の作成に尽力いただいている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時やサービス担当者会議等で、意見や不満等を積極的に伺っている。また、運営法人による利用者向けのアンケートを行い、その結果を法人内のグループホーム連絡協議会等で検討する事によりよりサービスの向上に反映する仕組みがある。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の一員として様々な行事に参加するとともに、地域における社会資源のひとつとして、専門的な形で貢献したいとの考えから、認知症の相談や起震車体験等で地域の方との交流を行っている。食材料等は地域の店から購入しており、馴染みの関係を築く努力をしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に基づき、その実現に向けて事業所の行動目標、ユニットの行動目標としてそれぞれ全職員で毎年作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念の実践に向けて、毎年事業所及びユニットごとの行動目標を会議等で検討し、職員間の理念の共有と実践に結びつけている。また、法人による、職員全員がそれぞれの「個人目標管理シート」を活用し自己点検を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として様々な行事に参加すると共に、地域における社会資源のひとつとして、専門的な形で貢献したいとの考えから、認知症の相談や起震車体験等で地域の方との交流を行っている。食材料等は地域の店から購入しており、馴染みの関係を築く努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については全職員が行い、その後、ユニット会議等で話し合い確認している。前回の外部評価に関しては全体会議等で周知を図り改善し、また、年1回の家族交流会で家族に説明、報告し意見等を受けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、事業計画、事業所の事故事例、ヒヤリハット事例、非常災害対策、外部評価結果等の報告を行い、様々な意見を受けている。その会議の中で非常災害対策として連絡体制に関して、地域の方々に協力を依頼し、緊急連絡網に加わっていただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町による高齢者部会、ケアスタッフ勉強会等に参加し、町担当者との情報交換を図り、事業所による事例発表会を通じて現状における課題等の共有を図り、町と共にサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	通院や状態変化時にはその都度報告している。毎月発行される「事業所だより」には利用者の生き活きとした生活状況が分かるような写真を入れ、利用者ごとに担当者がひと月の状況を記載し送付している。金銭管理に関しては金銭管理簿の写しにレシート等を添付し送付している。職員の異動に関しては面会時等に説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やサービス担当者会議等で、意見や不満等を積極的に伺っている。また、運営法人による利用者向けのアンケートを行い、その結果を法人内のグループホーム連絡協議会等で検討する事によりサービス向上に反映する仕組みがある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での交流を行い、普段から職員間での情報の共有に努めながら、ユニット間の異動に対処している。長期休暇や異動がある場合、利用者にとりまでの担当者が事前に説明し納得してもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット目標に「自己研鑽」を掲げ、積極的に研修を行っている。法人による研究会、研修会、交換研修など多様な研修を行っている。また、県社会福祉協議会等の外部研修会や、町の高齢者部会、ケアスタッフ勉強会等にも積極的に参加している。毎月行われる事業所の会議の中でも、伝達研修やケアマネージャー及び看護師による勉強会も行われている。個人目標に添って職員が学びたい研修や、スキルに応じた研修の参加へも考慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の高齢者部会、ケアスタッフ勉強会に参加し、事業所で開催する行事に他の事業所の参加をしてもらうなど、交流を図っている。また、他のグループホームから交換研修の受け入れなどを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には意向や能力を基に色々な役割を担ってもらっている。また、職員は利用者から日常生活の中で色々な人生経験を学んでいる。食事の際の会話で、ぼた餅の美味しい作り方を職員が聞いている光景もあった。行事として利用者だけでなく職員も一緒に楽しめるようなワラビ取り、カラオケ、ドライブ等の企画を開催している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントを利用し、利用者の意向や思いを把握している。また、家族から利用前の本人の暮らしぶりを聞いたり、普段の会話や表情から、利用者の意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ユニットごとに行われるカンファレンスでは、センター方式アセスメントを活かすと共に、担当者を中心に職員全員が普段の会話や表情、毎月のモニタリング等から、様々な意見、アイデアを出し合っている。サービス担当者会議にはほとんどの家族が参加し、本人の意向や希望に沿った、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングによりサービスの実施状況、目標の達成状況を確認し、評価を行っている。6ヶ月に1度の介護計画の見直しを行っているほか、状況に応じて、関係者と話し合い介護計画を見直すなど臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用開始時に主治医又はかかりつけ医の確認を行っ ている。町内の病院には職員が付き添い、通院記録簿 に心身の状況及び診察結果等を記録し家族への報告 を行っている。多くの医療機関に重複してかかっている 利用者については、適切な医療を受けられるよう時間 をかけて関係者と話し合い整理した例もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	利用開始時より終末期に向けた方針について、本人家 族と話し合いを行っている。また、かかりつけ医からグ ループホームでの状況について理解を得、対応してもら っている。契約時やサービス担当者会議で事業所が 出来る事出来ない事を家族に説明し方向性を共有した 例もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	職員全員で自己点検を実施し、その中でプライバシー についての取り組みを考えている。また、運営法人が 事業所ごとに内部評価を実施し、評価結果を職員全員 が会議で話し合い、普段の支援の中でプライバシーの 確保が図れるように取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合に合わせるのではなく、一人ひとりの ペースを大事にし、起床時間が異なる利用者には、他 の利用者に無理に合わせることなく、希望や体調に合 わせて起きてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒にとり、利用者の希望及び能力に応じて準備、調理、後片付け等も一緒に行っている。旬の食材を献立に取り入れ、季節感を味わう料理となるよう工夫している。ユニットによっては献立を決める際、職員だけでなく利用者に決めてもらう日を設けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、入浴時間帯等には決まりはなく好きな時に入浴してもらっている。入浴時間についてもゆっくりとくつろげるようにしている。また、入浴を好まない利用者については、タイミングや声かけの工夫を行い支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式アセスメントや家族からの聞き取りにより、利用者の生活歴、習慣、趣味等を把握し、それらに沿った支援を行っている。つる細工や編み物が趣味の利用者から作品を作ってもらい、事業所内に飾っている。また、買い物好きな利用者には、食材選びの役割を担ってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩等戸外に出かけられるように職員が積極的に働きかけ、一緒に外出をしている。その中で、外出先に馴染みの店が出来るなど、利用者が楽しみながら外出できるような支援体制が築かれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	玄関は、利用者が自由に入出入り出来るようになっている。また、一人で出かけることの好きな利用者の把握も出来ており見守りを行うと共に、近所の駐在所や郵便局の協力を得られるよう地域との連携にも取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	総合避難訓練や、夜間、通報等の部分訓練も実施している。また、全職員がAED講習、3名の職員が応急手当普及員講習を受講したり、安全管理委員会で災害時の対応方法について話し合いを行っている。緊急連絡網に駐在所、公民館を載せたり、起震車体験会には近隣住民にも参加してもらい、地域との連携に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスチェックシートを作成し、栄養に偏りがないか確認を行いながら献立を作成し、栄養士がチェックを行っている。また、水分チェック表にて、利用者ごとの水分量を確認し、水分摂取不足がないか配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに干し柿やしいたけ干し等季節を感じさせるものを飾ったり、つる細工、編み物、ぬり絵等の利用者や家族の作品を展示したり、穏やかな音楽を流す等、家庭的で快適な雰囲気を演出している。また、トイレが4ヶ所あり、普段の生活に不便がないような造りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は積極的に利用者や家族へ馴染みの物を自由に持って来てもらえるよう働きかけ、カーペット、写真、家具等を持ち込んでもらい、利用者が居心地良く過ごせる空間を作ってもらえるように配慮している。		